

## C - 1

## 虐待ケース、柔軟なサービスで

柔軟なサービス

虐待対応

多機関協働

小規模多機能型居宅介護ができること

広島市 中区

ゆうゆう た う ん もとまちしょうきぼたきのうがたきょたくかいごじぎょうしょ  
悠悠タウン基町小規模多機能型居宅介護事業所管理者 おちあい ひろひこ  
落合 洋彦

増本由美子（広島市相談支援包括化推進員）

吉村 和子（主任介護支援専門員）

E-Mail ; [m-syoutaki@yuuyuu.hiroikai.or.jp](mailto:m-syoutaki@yuuyuu.hiroikai.or.jp) FAX ; 082-511-3156施設（事業所）  
またはサービスの  
概要

社会福祉法人福祉広医会が広島市中区基町に令和3年8月に開設。居宅介護支援・訪問介護・訪問看護・通所介護サービスを実施。地域包括支援センター（委託）を併設。

## I. &lt;取り組み課題&gt;

広島市における高齢者虐待について、養護者が息子であるケースが全体の35.2%である。このような場合、養護者である息子と支援関係を構築することが困難であり、息子が困りごとを訴えられない事例が多くある。そのため小規模多機能型居宅介護（以下小多機）の柔軟なサービスを活用することで、息子との関係構築ができ、息子が支援者に困りごとが出せるようになった事例の取り組みについて報告する。事例発表については対象者に書面で説明し了承を得ている。

## II. &lt;具体的な取り組み&gt;

80代の母親（要介護2）と50代の息子（パニック障害あり）と二人暮らし。地域包括支援センター（以下包括）のみが支援を行っていた。

母親の認知症が進行し、息子に対応に苦慮することが増え、X年Y月に、「母に手をあげそうだ」と包括にSOSを出し、緊急ショートステイを利用した。しかし息子は「母を連れて帰りたい」と支援者と対立関係となった。そのため多機関協働事業の相談支援包括化推進員（以下SW）が介入し、息子と支援関係構築を図るために、包括、居宅介護支援事業所（以下CM）、基幹障害者相談支援センター（以下障害SW）が協働することになった。

息子と支援者との関係構築が困難である要因の一つに、息子はコミュニケーションが苦手であり、時間や予定を決められることが苦手であった。そのため小多機の柔軟なサービスを利用し、母親、息子それぞれに支援を開始した。

（母親への支援）

当初は泊りサービスを利用し、母親の状況把握を行った。また息子が在宅での介護に困る入浴や更衣などを中心に支援を行った。

（息子への支援）

息子の精神状態の波に合わせて、急遽の小多機への泊りや小多機から自宅に戻る対応をした。特に夜間帯での希望が多く、深夜帯での泊りの受け入れや外出など支援を行った。また、息子からの電話相談について、息子の想いを受け止め、息子が困っていることは何か、小多機が母親や息子にできる支援は何かを、整理できるよう話を聞いた。（支援者間の情報共有）

息子は障害SW、CMに対して電話で相談することが多いため、SWを中心に情報を共有した。息子の困りごとが何かを共有することで、息子がどこに相談しても同じような対応をすることができ、安心して電話相談ができるようになった。

## III. &lt;活動の成果と評価&gt;

- ・息子が母親への対応が困った時に、支援者へ連絡することができ、母親と物理的距離を取ることができるようになった。

- ・息子のコミュニケーションに変化が見られ、困りごとを具体的に支援者へ訴えることができてきた。そのため、自宅での困りごとが少しずつ明らかになり、障害SWと協働し、息子の困りごとに対しても対応できる支援体制が構築中である。

- ・母親が関わり当初より元気になり、息子の支え手になっている事が分かった。

## IV. &lt;今後の課題&gt;

- ・息子の支援移行の課題；息子の支援導入時に小多機として、息子への働きかけやサービス事業所との連携方法についてどのようにしていくのか。

- ・小多機の運営上の課題；どこまで柔軟なサービスを提供する事が出来るか。

## V. &lt;参考資料など&gt;

- ・高齢者虐待に関する資料（広島市HP）

- ・広島市における多機関協働事業（広島市HP）